

3 山間部の生きもの（龍神山・高尾山・横山）

龍神山・高尾山・横山など 500 から 700 m の山々が東西方向に連なり、北の方で虎ヶ峰とらがみねから果無山脈はてなしに続いています。森林の大部分はウバメガシぼうがりん萌芽林ですが、その中に内陸に生えるアカガシ林やウラジロガシ林などの常緑カシ林じょうりよくや、コジイ林・スタジイ林などのシイ林やタブノキ林が混生しています。また、この森林内にはタイミンタチバナ、トキワガキ、ミミズバイ、カンザプロウノキ、バクチノキ、イスノキ、カクレミノなど、多くの暖地性植物が生育して、紀南特有の“熊野の森”を形づくっています。山の中腹以下が開発されて果樹園になっているので、農薬汚染により昆虫などが少なくなっている地域もあります。それでも和歌山県下では、貴重な種とみなされる動植物のすぐれた観察地です。その特色や見どころを紹介します。



ウバメガシ



コジイ林

① 草花と樹木

《春を待つ花》

まだ寒さのぬけない梅の香る時期、畑の草地では、タンポポ、ハコベ、ハハコグサ、ナズナ、ハルノノゲシなどの草花が、早くから咲いています。



タンポポ

朝夕霧のかかる谷間の片隅に純白

の花をつけるバイカオウレン、その周辺で白い小花をつけるセントウソウ、山すその畦の草むらにそっと顔をのぞかせるアマナ、面白い模様のまるい葉をつけ、その根元に花を咲かせるアツミカンアオイ、花ではなく胞子^{ほうし}のかたまり^{かたまり}をつけるオオハナワラビ、京阪神より一ヶ月以上も早くからこのように可憐な花を見ることができます。



ハハコグサ



バイカオウレン



アマナ



アツミカンアオイ



オオハナワラビ

《春の山の花》

山道の春は、アセビの白い花やヒカゲツツジの黄緑の花で始まります。

ヒカゲツツジは他の地方では少なくとも標高 700 m 以上でないと見られないのに、ここではどういいうわけか、数十メートルの山すそから、ごく普通に見ることができます。

紀南地方にもっとも多いモチツツジは、乾燥した尾根部や岩場に生えています。花期が定まらずに一年中少しずつ花をつけていますが、やはり春がもっとも多く、いたるところで桃色の大きな花を誇っています。この花のガクや新芽には“とりもち”のような粘液が出ていたため、そこに小さな虫がたくさんついて死んでいます。

ツバキやスミレも春の花ですが、田辺ではよく真冬から咲きます。よく見られるスミレは、タチツボスミレ、コスミレ、スミレ、シハイスミレ、ツボスミレなどで、よい香りのするニオイタチツボスミレも見られます。



ヒカゲツツジ



モチツツジとナガサキアゲハ



ツバキ



タチツボスミレ

《初夏の花》

ヤマザクラの花が散ると、山一面に密生しているシイやウバメガシ、アラカシ、ウラジロガシなどのカシ類が一斉に花をつけます。

山道付近にはオンツツジ、コバノミツバツツジが、カマツカ、コバノガマズミ、ネジキなどの木には小さな白い花が一斉に咲きはじめます。卵の花と呼ばれるウツギ、葉がまるいマルバウツギ、糊のりの木と呼ばれるノリウツギなどは、よく目立つ存在です。これらの花には多くの昆虫たちも集まります。



オンツツジ



ノリウツギ



カマツカ

《夏の花》

夏は花の少ない時期です。それでも、林緑の草地では、長くはびこるセンニンソウやボタンヅルなどが一面に白い花をつけます。また、キイセンニンソウという紀伊の地名がついた植物も、同じような白い花を咲かせています。



キイセンニンソウ



ボタンヅル

《秋に咲く花》

秋はキクのシーズンです。ノコンギク、シラヤマギク、イナカギク、アキノノゲシ、ヤマニガナ、ムラサキニガナ、ヤクシソウ、リュウノウギクなど、多くの花が山道で見られます。今では少なくなったオミナエシやリンドウも見られます。カシ類では珍しく秋に花を咲かせるシリブカガシやススキに寄生するナンバンギセルなど、秋はいつも何かの花に出会うことができるので楽しいです。また、常緑樹のリンボクやバクチノキの枝に白い穂のような花がつくのも、秋の照葉樹林ならではの景観です。



オミナエシ



シリブカガシ



ナンバンギセル



バクチノキ (幹)



バクチノキ (花)

② コケ植物

コケ植物は、他の植物に比べるとなじみのうすい小さな植物ですが、ルーペや顕微鏡を使って観察すると、いろんな形や色をもつ美しい植物たちです。

大きく^{せんるい}蘚類、^{たいるい}苔類、ツノゴケ類の3つのグループに分けられます。

私たちが普段目にしていてる緑色の部分がコケ植物の体で、その上に子孫を殖やすための^{ほうし}胞子体をつけている時期もあります。コケの花と言われることもあります。蘚類は比較的長い期間、苔類やツノゴケ類は短い期間しかつけていません。

コケ植物は、塩分の濃い所を除き地球のあらゆる場所に生育しています。地上、岩上、樹上、水中など熱帯から高山まで、世界で2万種ほど、日本でその約10分の1が生育しています。

紀伊半島でも南部は雨が多く、温暖でコケ植物は豊富なところ。海岸よりも内陸部の湿度の高い溪流へいくと、多様なコケ植物がいろんな所に生えています。野外では見過ごされたり、踏みつけられたりしている小さな植物ですが、手にとりルーペでじっくり観察すると、思わぬ世界が広がります。

ここでは、山間部で見られるコケ植物のいくつかを紹介しましょう。種によって、様々な大きさがあり色も違ってきます。また生え方も異なっていますので、注意すると野外でも次第にその違いがわかってくると思います。

ほとんどは常緑ですので年中観察することができます。中でも大形の種もあり種類も多く、量的にも多い蘚類の方が苔類やツノゴケ類よりも目につきやすいでしょう。

オオウロコゴケ（苔類）：地上や土のたまった岩に生えます。苔類としては大きな方ですが、あまり目立ちません。



オオウロコゴケ

オオシラガゴケ（蘚類）：乾燥した地上や岩上に生え、大形で白っぽくすぐに目につきます。



オオシラガゴケ

ギボウシゴケ（蘚類）：溪流でも日の当たる岩場に生え、黒っぽい緑色の塊になって見えます。



ギボウシゴケ

クシノハゴケ（蘚類）：岩上や地上、木の根元などに生え、乾燥しても葉は茎にくっつくことはなく、ひろがったままです。写真には茶色の胞子体が見えています。



クシノハゴケ

ケゼニゴケ（苔類）：湿った地上や岩上に生える大形のゴケです。ゼニゴケの仲間で、平たい葉の上にクモの巣のような毛が生えているので野外でもすぐにわかります。



ケゼニゴケ

トヤマシノブゴケ (蘚類)：溪流の岩上に生育、シダ植物のシノブに似ています。

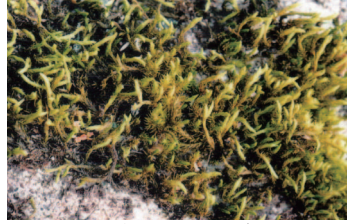
ナガエノスナゴケ (蘚類)：乾燥した岩上に生え、水分を吸うと葉がひろがるので、写真とは全く異なる形になります。

ナガサキツノゴケ (ツノゴケ類)：湿った地上や岩上に生えます。角のような胞子体をつけ、熟すると先端から二つに裂け、ねじれながら胞子を飛ばします。

ナガサキホウオウゴケ (蘚類)：常に水が滴る岩上に生えます。少し大形のホウオウゴケも見られます。



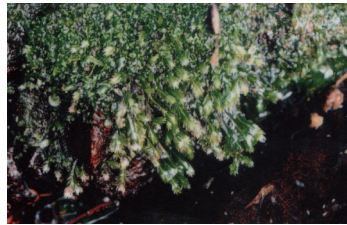
トヤマシノブゴケ



ナガエノスナゴケ



ナガサキツノゴケ



ナガサキホウオウゴケ

③ 昆虫やクモ類

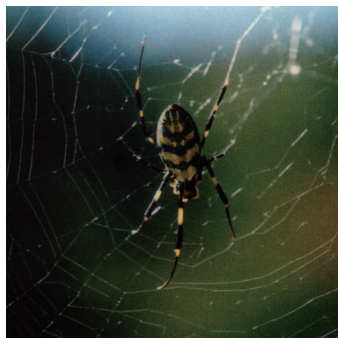
田辺の山々は、昆虫やクモ類など小さな動物たちを観察するには手頃な環境です。深い森林は少ないものの、自然林が広く残っていて、観察には都合がよいのです。しかし、紀南地方の昆虫は熊野の自然の豊かさを反映しているだけに、簡単な図鑑などによっていない種類が多いのです。時間をかけて慎重に調べてください。昆虫など小さな動物を調べるには、採集して標本を作り、くわしく調べることも大切です。ふるさと自然公園センターなどの標本も参考にしてください。

採集にはネットで捕るだけでなく、枝や葉を叩いて白い布に落とすとか、餌をしかけて集めるなど、いろいろな方法があります。もっとも大切なことは自然の中で、どんな小さな虫でも、自分で見つけて、その生活をよく観察することです。

山道でまず目につくのはクモ類で、顔に網がかかったり、枝葉の上に白い糸で網を張っているからです。初夏に見られる黒と黄色の横じま模様のクモはコガネグモです。秋によく見られるジョロウグモとよく混合されますが、現れる時期もその姿も、かなり違います。大きいドーム状の網を張るスズミグモは、紀南地方ではかなり普通に見かける熱帯系のクモです。道端の茂みの上に膜状まくじょうの網をつくり、その奥に糸でトンネルをつくっているのはクサグモです。ほかにもカゴ状の網を張るヒメグモ類、シートや皿形の網をつくるサラグモ類など、網の形にはクモのグループによって特徴があります。



コガネグモ



ジョロウグモ

網を張らないクモもたくさんいます。ハエトリグモ類は草の上で餌を探して歩き回っています。ワカバグモやハナグモは、葉の先でじっと待ち伏せをします。



ワカバグモ

④ 両生類・爬虫類 はちゆう

山間部にすむ両生類や爬虫類には次のようなものがあります。

コガタブチサンショウウオ：森林の落ち葉の下にすみ、春に源流域の小さな流れに産卵し、そこで幼生が育ちます。



コガタブチサンショウウオ

タゴガエル：森林にすみ、春早く溪流沿いの岩穴から、独特の鳴き声が響くように聞こえてきます。



タゴガエル

ヤマアカガエル：1月から2月の寒い時期に水田跡などの浅い水たまりに卵塊らんかいを産みます。



ヤマアカガエル

シュレーゲルアオガエル：緑色の美しいカエルで、4月ごろ水田の畦に穴をつくって泡状のような白い卵塊を産みません。



シュレーゲルアオガエル

タカチホヘビ：朽ち木の中などのミミズを食べます。

シロマダラ：昼間はなかなか見つかりませんが、時には物陰にひそんでいるのを見かけることもあります。

ヤマカガシ：山でも水田でもよく見かけるヘビで、のどのところは黄色くなっています。このヘビの奥歯には毒があり、また、首を強く押すと皮膚から毒液が出ますから注意してください。

マムシ：猛毒のヘビとして有名で、卵で産まずに子供を産むヘビです。

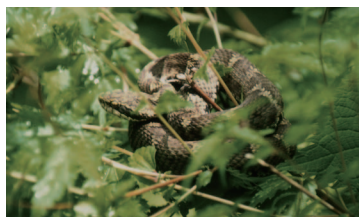
この他にヒバカリ、ジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、カナヘビ、クサガメ、ニホンイシガメなども見られます。



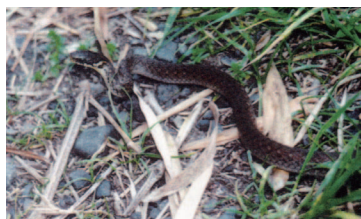
シロマダラ



ヤマカガシ



マムシ



ヒバカリ



カナヘビ



クサガメ



ニホンイシガメ

⑤ 鳥類・哺乳類 ほにゅう

田辺では野鳥の観察は冬の方が適しています。暖かい紀南地方は、鳥の冬越しに条件が整っているからでしょう。照葉樹林の多い地域では、この傾向が一般的であると考えてください。しかし、山間部では春からえいそう営巣して繁殖する野鳥もかなりいるため、この地域は年間を通じて、比較的多くの種類を観察することができます。

春から夏に普通に見られるのは、ウグイス、ヒガラ、ヤマガラ、エナガ、ホオジロ、モズ、キジバト、ヤマドリなどのりゅうちょう留鳥と、センダイムシクイ、ホトトギス、サシバ、ツバメ、アマツバメなどの夏鳥です。コジュケイは外来種ですが、みかんや梅の畑に住み春と秋に「チョットコイ」と鳴いています。冬鳥のルリビタキやシロハラ、アオジなどは北へ帰る前に美声を聞かせてくれます。



ウグイス



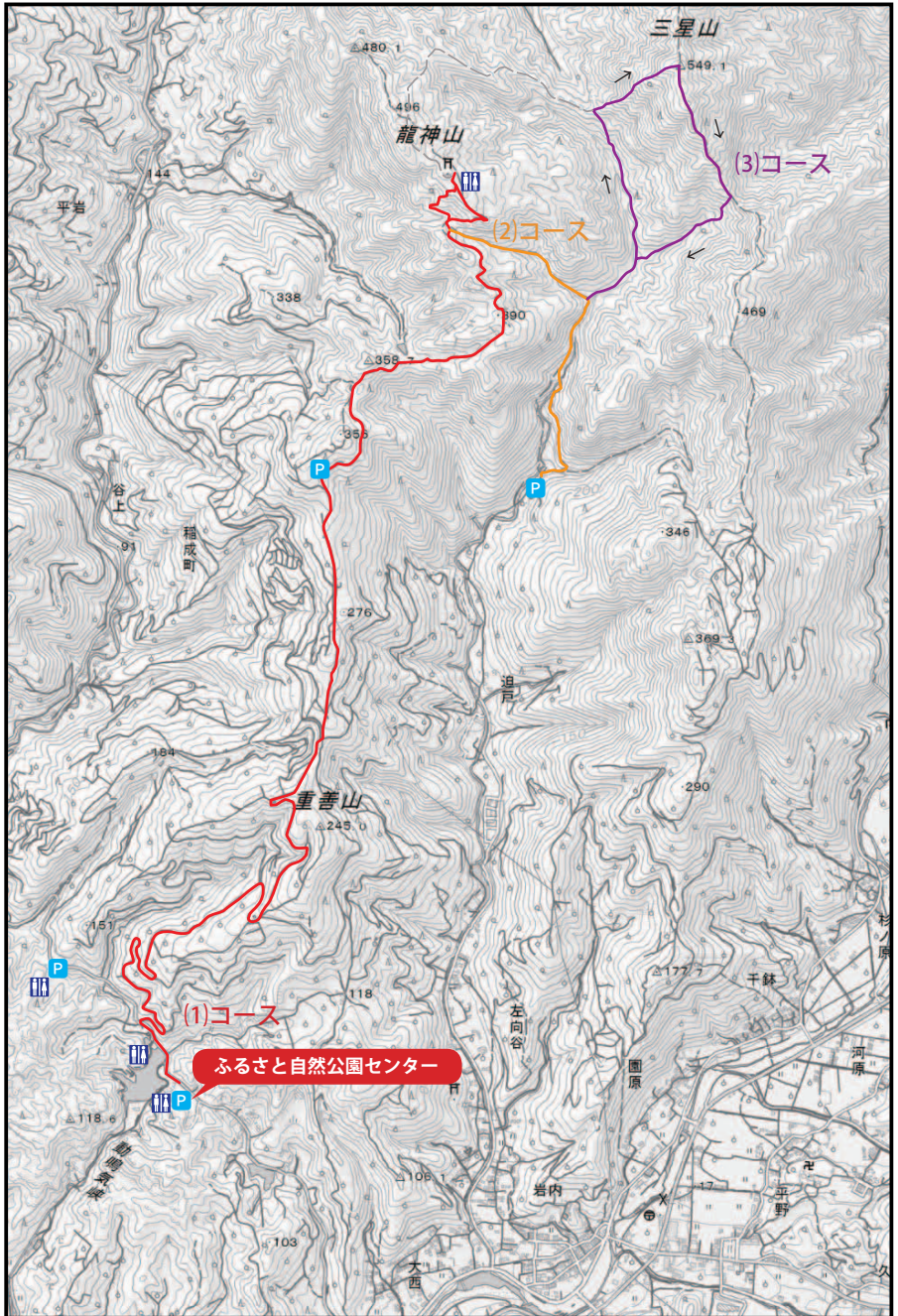
ヒガラ



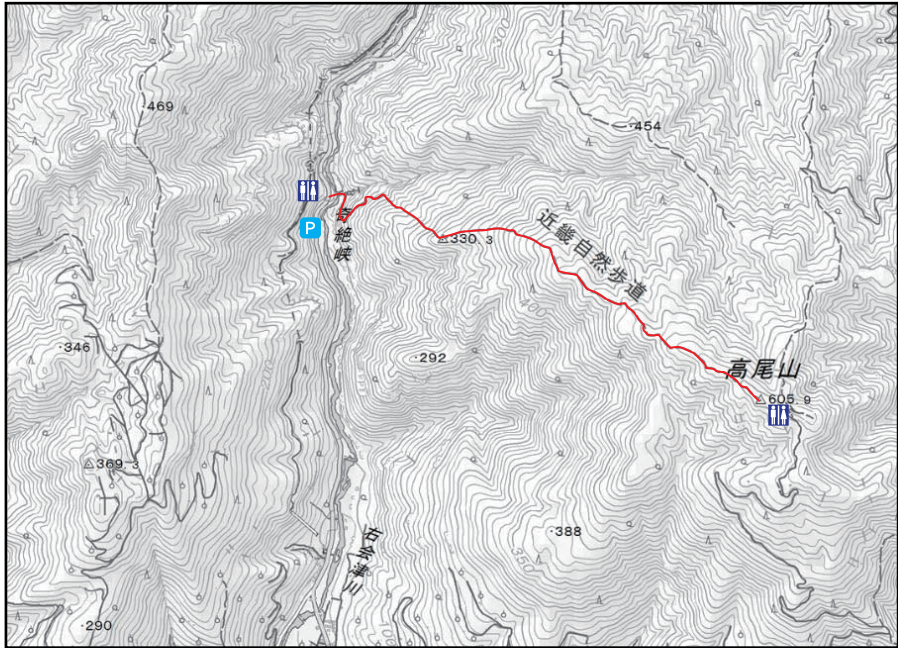
ヤマドリ

《観察コース》

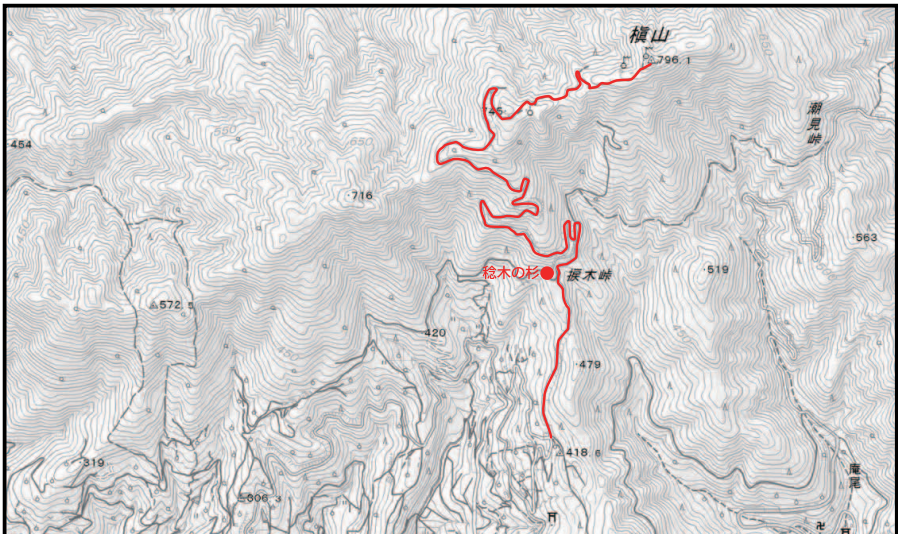
- (1) 稲成町のふるさと自然公園センターから龍神山への農道を登り、終点から徒歩で尾根づたいに龍神山の山頂へ
- (2) 上秋津のさこだに左向谷の農道を車で登り、終点から登山道で谷を西側に詰めて龍神山の山頂へ
- (3) 同じ左向谷の終点から谷を東側に詰めて、岩尾根を登って三星山の山頂へ



(4) 奇絶峡から不動の滝の上に出て、尾根を登って高尾山の山頂へ



(5) 上野から(株)NTTドコモ横山無線中継所管理道を歩いて横山の山頂まで



以上が一般的なものです。

高尾山へは山頂近くまで車で登れますから、山頂付近で時間をかけてバードウォッチングするのも、また楽しい試みだと思います。崖地ではハヤブサの子育てが見られます。

哺乳類では、この地域には和歌山県下で知られているものの大部分がすんでいます。ニホンザル、ニホンカモシカ、ホンシュウジカ、イノシシなどの大形の哺乳類をはじめ、キツネ、タヌキ、アナグマ、テン、ニホンイタチ、ムササビなど中形の哺乳類もいます。この中で、ニホンカモシカは特別天然記念物として保護されています。また、ニホンイタチは山間部に生息していますが、海岸線から市街地や農耕地の一带は、帰化したチョウセンイタチが多くなってきました。



ニホンイタチ



チョウセンイタチ



シカの糞



タヌキの糞



ムササビ